

薬用植物園かわらばん

いま、こんな草木も楽しめますよ！
草木に囲まれ心も体もリフレッシュ…



2020年
6月18日
第94号

セイヨウノコギリソウ（キク科）

英名を「ヤロウ」といい、今、第二圃場で花が開き始めています。これから9月頃まで、白色の頭状花がたくさん咲く姿が見られます。ヨーロッパ原産の多年草で、日本には明治中期に渡来しました。けっこう草丈があり、地下茎をのぼして盛んに繁殖し、一部地域では野生化もしています。ヨーロッパでの民間薬で、花期の全草を収斂、発汗、強壮を目的に使用します。全草に精油成分を含み、古くは修道院で作られていたビール（エール）の苦味や香りづけにも用いられたようです。最近では、園芸用に、黄色や橙、紅色品の開発も盛んに行われています。

中国語での植物名は「蓍 (shī)」、この字の日本語での発音は「し」または「めど」（＝目処）で、ノコギリソウは、古くは占いで使用する筮竹（ぜいちく）の原料でした。もっとも、現在の日本語の「蓍」は、筮竹を作る時の代用品として使用されていたマメ科のメドハギのことを指しますが。ノコギリソウは、日本では北海道と本州の山地に自生する在来種です。



イブキジャコウソウ（シソ科）

今、園内は沢山の美しい花が目にとまりますが、チョット足元にも目を向けてください。第三圃場ではイブキジャコウソウの可愛い紅紫色の花が見られます。全国の山地、草地、海岸に至るところに生える小さな木本植物で、イブキジャコウソウ属（タイム）の仲間では唯一日本に自生します。ジャコウのような良い香りがするで、この名が付けました。香りが強く遠くまで香るので百里香とも呼ばれますが、少々オーバーな気がします。名前の「イブキ」は、滋賀県の伊吹山からですが、北海道、本州、九州で、海岸から高山帯まで、幅広く自生しています。ハーブとして使用されるのは、近縁種のタチジャコウソウで、こちらの地上部を香り付けのために料理に使用したり、ハーブティーとして使用します。こちらは第一圃場で見られます。

今、こんな草木が
楽しめます！！